

SVPインサイトVol.39

AI(システム構築・活用支援サービス)

～国内市場の現状と将来展望～

本レポートは、2024年3月発行の注目市場分析レポートに基づき作成しております。
また、上記レポートは当社会員向けに提供しております。

I. 市場の定義

AI関連システム構築・活用支援サービスは、企業が業務システムにAIを導入する際に提供される一連のサービスを指す。具体的には、AI活用のコンサルティングからシステムの企画・立案、プログラム開発、ハードウェアやアプリケーションの提供などを含むシステム構築、また、システムの保守・運営、改善業務に加え、AI運用の内製化を支援する人材育成サービスも含まれる。

市場規模とマーケットシェアは、これらのサービスに対し、システムを導入する企業が投じた投資額として推定した。

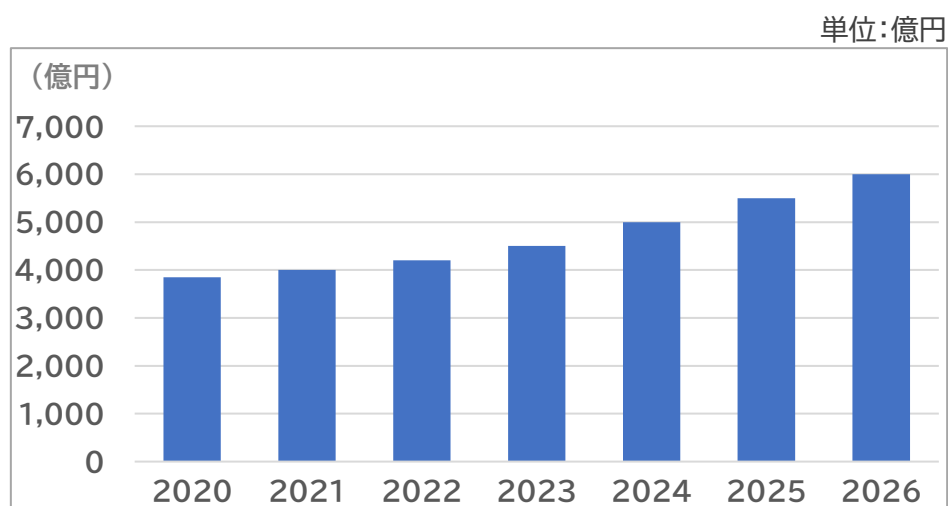
II. 市場動向

AIの業務活用は、初期段階では期待と効果の乖離が課題だったが、製造業や金融業、小売業を中心に導入が進展している。具体例として、製造業では品質検査や生産計画、金融業では不正検知やチャットボット、流通業では需要予測や自動発注、医療機関では画像解析や診断支援などが挙げられる。特に生成AIの台頭により、企業のDX推進にAI活用へのニーズが高まり、市場は拡大傾向にある。また、AIを活用したシステム開発の需要は急速に拡大しており、システムの運用・保守を含むサービスへの依存も高まっている。こうした背景から、大手SIerやスタートアップ企業の参入が相次いでおり、AIコンサルティングから運用支援までの一貫したサービスの需要が高まっている。

III. 市場規模・予測

2023年のAI関連システム構築・活用支援サービス市場規模は約4,500億円と推定される。2020年から2021年にかけてコロナ禍で一時的な縮小が見られたものの、その後は年間約10%の成長を記録し、2026年には6,000億円に達すると予測される。業種別では、製造業や金融業の比率が高く、流通業や建設業でも今後の需要拡大が期待される。現在、製造業と金融業は市場全体の50%を占め、残りは流通業やその他業種が占めている。

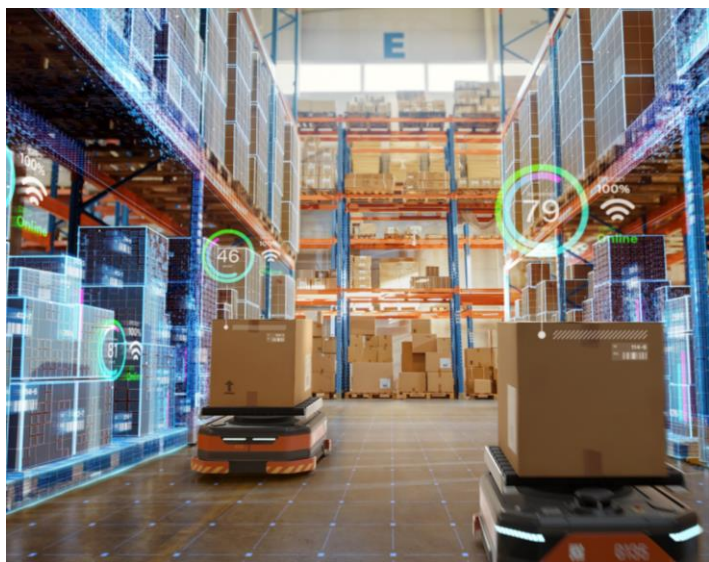
AI(システム構築・活用支援サービス) 市場規模推移



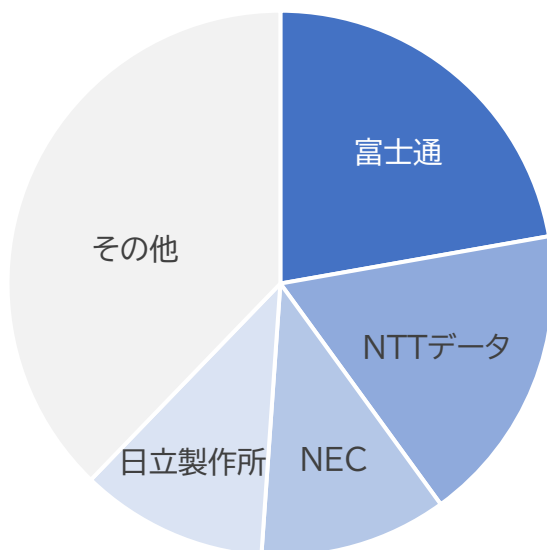
SVPジャパン推定

IV. マーケットシェア

2023年時点で、富士通、NTTデータ、NEC、日立製作所が市場の過半数を占める。この4社の合計シェアは60%以上で、その他は大手SIerやAIスタートアップが市場に参入している。富士通は20%以上のシェアを持つ、マーケットリーダーである。



AI(システム構築・活用支援サービス)・
マーケットシェア(2023年)



※SVPジャパン調べ

V. 参入企業の動向

富士通は製造、物流、金融、医療など多様な分野でAI技術を提供している。2023年には独自の生成AIを活用して、理化学研究所と創薬技術を開発したことを発表。NTTデータは、DataRobotとの提携によりAI活用プログラムを提供し、生成AIのソリューション開発に注力している。NECは「NEC the WISE」を軸に、製造業や小売業、物流業、金融業など多岐にわたるAI導入を支援。生成AI事業も展開中で、売上目標を3年間で500億円と設定している。日立製作所は需要予測やチャットボット、映像解析ソリューションを中心に事業を展開。2023年には「Generative AIセンター」を新設し、自動車メーカーなどを対象に、生成AIを活用してソフトウェア開発の効率化を支援する技術を開発。その他の企業では、伊藤忠テクノソリューションズやSCSKがAI関連サービスに注力。AIスタートアップも市場に参入しており、多様なソリューションを展開している。

VI. 業界構造

主要提供企業は大手SIerであり、メーカー系(富士通、NEC、日立製作所など)、ユーザー系(NTTデータ、伊藤忠テクノソリューションズ、SCSKなど)、独立系(BIPROGY、TIS、大塚商会など)に分類される。また、スタートアップ(ABEJA、Preferred Networksなど)や技術商社、インターネット関連企業もサービスを提供している。業界全体では、大手とスタートアップの協業が進み、多様なニーズに対応したサービスが提供されている。



1分でわかる

SVP会員制 ビジネス情報サービス



1. ビジネス情報収集における環境の変化

環境の変化が激しく、将来の予測が非常に困難な時代に入

変化①

社会環境の変化



- ✓ 戦争の勃発
- ✓ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の流行
- ✓ 気候変動

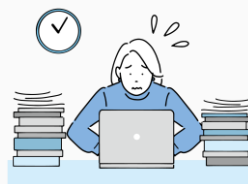


変化②

ビジネス環境の
変化



- ✓ テクノロジーの進化
- ✓ グローバル化
- ✓ 新世代の台頭
- ✓ 破壊的企業の躍進



組織的な課題に直面



2.企業が直面している3つの課題

これまで以上に、迅速で的確な情報収集・分析能力が求められています

1 幅広いビジネス 情報のアクセス

幅広い事象に関して、
スピーディーにアクセスできる
環境の整備



3 成長が期待される 新市場の動向把握

事業機会の可能性がある全ての
市場や企業動向を認識する
ケイパビリティの有無



2 質の高い情報の獲得 (重要領域での質の担保)

信頼できる上質な
ビジネス情報を収集できる
環境の構築



3.当社サービスが提供する価値



ビジネス情報に関する皆さまの課題を当社が解決いたします！

SVP会員サービス



解決① クイックリサーチ

I.

膨大なビジネス公開情報へアクセスし、スピーディーに最適な情報を提供

解決② プロジェクトリサーチ

II.

カスタム調査を通じて、質の高いビジネス情報と分析アウトプットを提供

解決③ SVPナレッジ

III.

当社が定義する、メガトレンドや注目市場の動向予測レポートを提供

年間契約で3つのサービスをご提供します



I. クイックリサーチ

活用シーン

- ・日々のリサーチ作業をアウトソースして、分析や戦略立案など付加価値業務に注力したい。
- ・ニーズに合ったビジネス情報を、スピーディーにわかりやすくまとめて提供して欲しい。

特徴

- ✓幅広いビジネス公開情報の活用
- ✓プロのリサーチャーによるニーズ把握と最大2時間の調査
- ✓わかりやすくまとめたレポートでご報告

納期 最短2日営業日以内

III. SVPナレッジ

活用シーン

- ・メガトレンドを中心とした、将来、事業に影響を与える環境要素は何か知りたい。
- ・①Z世代、②サステナビリティ、③テクノロジー、④新興国を含む海外市場、⑤破壊的企業の動向を把握したい。

内容

- ✓SVPメールマガジン
- ✓SVPインサイト
- ✓SVP注目市場分析
- ✓SVPトレンド調査

配信頻度 月1回以上

II. プロジェクトリサーチ

活用シーン

- ・公開情報では公表されていない、市場や業界、企業、消費者の情報収集がしたい。
- ・自社の事業領域に関する、質が高く、ニーズに即した情報を入手して、ビジネスに即活用したい。

特徴

- ✓広範なカスタム調査・分析
- ✓デスクリサーチ
- ✓ヒアリング調査
- ✓Webアンケート調査

納期 調査内容に応じて決定

5.導入実績



年間調査実施数
約15,000件



商用DBシステム利用
20システム



国内外企業財務情報
4,000万社以上



SVPネットワーク
世界40カ国の広がり

日本の売上高トップ100社中7割の企業でのご利用実績 導入企業600社以上





—SVP JAPANのサービスについて—

2営業日以内に調査結果をご報告

クイックリサーチ

[詳しくはこちら](#)

カスタムメイドのリサーチサービス

プロジェクトリサーチ

[詳しくはこちら](#)



—各種お問い合わせ—

資料ダウンロード

[こちらをクリック](#)



お問い合わせ

[こちらをクリック](#)



s'il vous plaît
SVP JAPAN
株式会社SVPジャパン

まずはお電話でもお気軽にお問い合わせください。
TEL : 03-3249-0771

